

教育長様

研究コース	グループ研究Bコース
校舎コード(代表者校舎の市費コード)	751723

代表者 校舎名: 大阪市立長吉小学校
 校舎長名: 高田 一夫 校印
 電話: #REF! FAX: 6799-1104
 申請者 校舎名: 大阪市立長吉小学校
 職名・名前: 養護教諭 橋本 宏美
 電話: 6709-2000 FAX: 6799-1104
 代表者校舎 事務職員名: 富平 直美

平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 申請書

◇ 本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Bコース	研究年数	継続研究(2年目)
2	研究テーマ	養護教諭の専門性を活かした健康教育の研究 一子どもたちが生涯にわたり心身ともに健康で 活力のある生活を送るための能力育成をめざして ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等) 心身の健康の保持増進 健康な生活習慣の形成 健康に関する現代的課題への対応			
3	研究目的	テーマに合致した目的を端的に記載してください。 ○幼稚園・小学校・中学校・高等学校のそれぞれの発達段階に応じた健康教育を推進する。 ○子どもたちが、生涯にわたり心身ともに健康で活力ある生活を送るための健康教育を推進する。 ○健康な生活習慣を形成し、健康を管理する能力を育成する健康教育を推進する。			
4	研究内容	継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。 (1) 地区別・校種別に分かれて共同研究に取り組み、今年度は次の3つの研究発表を実施する。 ① 城東区小学校「子どもの命を守るための教職員研修」 ② 住吉区小学校「ピア・サポートをつかった『いのち』の教育」 ③ 第5ブロック中学校「防災教育を養護教諭の立場から考える」 (2) 大阪市養護教員会の研究部を中心に、「養護教諭が行う健康相談の充実をめざして 一よりよい支援の場としての保健室のあり方を考える」というテーマのもと、研究を進め資質の向上を図る。 (3) 全国レベルの健康教育関係の研究会・研修会に参加し、その研修内容を全校園の養護教諭に報告・伝達講習を行い、日々の実践に活かす。 (4) 各校園で、日々収集している保健室統計データ(保健月報)を集計・分析し、心と体の健やかな成長を支援する手立てを探る。			
5	活動計画	日程など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。 (1) 運営委員会・常任幹事会を開催し、研究会・研修会の企画・運営を行う。(6月 7月 8月 11月 2月 3月) (2) 地区別・校種別に分かれて、区・ブロック部会を開催し、それぞれの共同研究のテーマに沿った活動を進める。(随時) (3) 全校園の養護教諭が年4回、教育センターの講堂に集まり、全体研修を実施する。 (7/12: 全体会・講演会 8/29: 定例研修会 12/14: 定例研修会 3/7: 定期研修会) そのうち、12月の定例研修会では、地区別・校種別の共同研究の研究発表を公表し、広く一般教員に参観していただく機会とする。また、3月の定期研修会では、大阪市養護教員会研究部の発表を行い、養護教諭間の研修の機会とする。 (4) 大阪市養護教員会代表者が次の研修会に参加し、研修した内容を報告・伝達講習する。 ① 近畿養護教諭研究協議会(7月31日8月1日) ② 全国養護教諭連絡協議会第21回研修会(8月2~4日) ③ 全国学校保健・安全研究大会(10月25、26日) ④ 全国養護教諭連絡協議会第24回研究協議会(2月22日) (5) 新規採用の養護教諭に、組織についての説明や実務についての交流を図る機会をもうけ、後進の育成に当たるとともに資質や能力の向上を図るための支援を行う。(7月上旬)			

6	見込まれる成果	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている<u>子どもの様々な力の育成</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載してください。</p> <p>子どもの様々な力の育成について 幼稚園から高等学校までの各段階に応じて、心身の健康についての知識を習得し、その知識を活用して、生涯にわたり心身ともに健康で活力ある生活を送ることができる子どもが育つこと、また、社会状況に対応し、健康に関する現代的課題を解決し、自らの健康や安全を管理する能力を身につけることのできる子どもが育つことが成果として見込まれる。</p> <p>教員の資質や指導力の向上について 研究・研修活動において学んだことを、各校園での健康教育実践に生かし、子どもたちが安心して生活を送ることができ、安全な社会が実現できるよう、大阪市立学校園全体の養護教諭の資質向上を図ること、また、子どもたちの発達段階に応じた適切な指導を効果的に行う知識や技量を身につけることが成果として見込まれる。</p>				
7	成果の検証方法	<p>客観的な指標により、<u>必ず数値で示すことができる検証方法</u>を記載してください。</p> <p>養護教諭の資質や能力の向上が図れたかなどについては、各々の研修会後に実施するアンケートから、研修会の内容が理解できたか、役立つ内容であったかなどを読み取ることができ、肯定的な回答が常に90%以上になるようにする。また、研究成果を大阪市立学校園全体の養護教諭で共有することで、養護教諭としての資質や能力の向上に努め、学校保健活動に生かしていく。</p> <p>大阪市養護教員会の研究部では「養護教諭が行う健康相談の充実をめざして一よりよい支援の場としての保健室のあり方を考える」というテーマのもと、研究を進めている。今年度は、子どもが安心して相談できる場を実現するための工夫や配慮事項を取り上げるとともに、支援が必要な子どもに対して、養護教諭と他の教職員が連携して組織的に取り組むことにより、より充実した健康相談を行えるようにしたいと考えている。これについては、養護教諭に行うアンケートで肯定的な回答が前年度よりも増えたかどうかで養護教諭の資質向上につながったかがわかる。</p> <p>子どもたちへの健康教育の効果については、子どもたちの振り返りカード・感想・アンケートなどにより検証できるものもあるが、メンタルヘルスの問題、生活習慣の乱れ、薬物乱用、性に関する問題などの現代的健康課題に対する検証は、正しい知識を身につけた子どもが育成できたかという検証になるので、健康教育を受けた子どもたちの成長や今後の生活の様子などが判断の決め手となる。そのため、本研究は今後も長期間にわたって継続して取り組む必要があると考えている。</p>				
8	研究発表の日程・場所(予定) 研究成果の共有方法	<p>研究発表は<u>報告書提出日(平成31年2月25日)までに必ず行ってください。</u></p> <table border="1" data-bbox="327 1489 1037 1579"> <tr> <td>日 程</td> <td>平成 30 年 12 月 14 日</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td>大阪市教育センター</td> </tr> </table> <p>○研究成果の共有方法: 研究発表 および 代表校園HPでの共有は必須です。他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> <p>研究誌「あゆみ」の発刊</p>	日 程	平成 30 年 12 月 14 日	場 所	大阪市教育センター
日 程	平成 30 年 12 月 14 日					
場 所	大阪市教育センター					
9	代表校園長のコメント	<p>将来を担う子どもたちが、生涯にわたり心身ともに健康で活力ある生活を送るためには、養護教諭の専門性を活かして、教職員・保護者等と連携し、発達段階に応じた健康教育を推進していくことが重要である。そのためにも、本研究会の果たす役割は大きく意義があると考えているので申請する。</p>				

※上記の内容をA4判2ページ(文字は10ポイント)※厳守で作成し、平成30年4月20日(金)までに大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。

教育長様

研究コース	グループ研究Bコース	選定番号	124
校園コード(代表者校園の市費コード)		751723	

代表者 校園名: 大阪市立長吉小学校
校園長名: 高田 一夫 校印
電話: #REF! FAX: 6799-1104
申請者 校園名: 大阪市立長吉小学校
職名・名前: 養護教諭 橋本 宏美
電話: 6709-2000 FAX: 6799-1104
代表者校園 事務職員名: 富平 直美

平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Bコース	研究年数	継続研究(2年目)
2	研究テーマ	養護教諭の専門性を活かした健康教育の研究 一子どもたちが生涯にわたり心身ともに健康で 活力のある生活を送るための能力育成をめざして一 ◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等) 心身の健康の保持増進 健康な生活習慣の形成 健康に関する現代的課題への対応			
3	研究目的	○幼稚園・小学校・中学校・高等学校のそれぞれの発達段階に応じた健康教育を推進する。 ○子どもたちが、生涯にわたり心身ともに健康で活力ある生活を送るための健康教育を推進する。 ○健康な生活習慣を形成し、健康を管理する能力を育成する健康教育を推進する。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 子どもたちが生涯にわたって心身ともに健康で活力ある生活を送るための能力を身に付けるために、養護教諭の専門性を活かした健康教育の研究を進めた。 (1) 地区別校種別共同研究に取り組み、今年度は12月14日に次の3つの研究発表を実施した。 ① 城東区小学校「子どもの命を守るための教職員研修」 ② 住吉区小学校「ピア・サポートで『いのち』の教育ーいのちの大切さを伝えるー」 ③ 第5ブロック中学校「防災教育を養護教諭の立場から考える」 (2) 大阪市養護教員会の研究部を中心に、昨年度に引き続き、「養護教諭が行う健康相談の充実をめざしてーよりよい支援の場としての保健室を考えるー」というテーマのもと、研究を進めた。 研究の成果を3月7日の定期研修会で発表した後、びわこ学院大学教授に「現代的健康課題を踏まえた養護教諭の役割ーよりよい支援の場としての保健室をめざしてー」の演題でご講演いただき、養護教諭の専門性の向上を図る。 (3) 7月12日に「子どもの性の健康ー安心感・安全感を高め心豊かに生き抜く子どもを育てるためにー」、8月29日に「子どもの動機づけ、行動変容、そして自己実現を目指す健康教育」という演題のもと、外部講師を招いての研修会を行い、日々の実践に活かした。 (4) 全国レベルの健康教育関係研究会・研修会に参加し、その研修内容を全校園の養護教諭に報告・伝達講習を行い、研鑽に努めた。 (5) 各校園で日々収集している保健室統計データ(保健月報)の集計を毎月行い、区やブロックごとに集計をし、さらに大阪市全体の集計及び分析を行い、心と体の健やかな成長を支援する手立てを探った。 以上、この1年間の研究活動を、大阪市養護教員会の研究誌「あゆみ」にまとめた。			

	5 成果・課題	<p>申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。</p> <p>養護教諭全体の研修会は、年4回実施しており、すでに終了した3つの事後アンケートでは、研修会の充実度についての肯定的な回答は常に90%以上で、平均は97.9%と高い数値になった。7月の研修会では「具体的な対応やお話が聞けたので、とても勉強になった」「子どもの性についてもっと養護教諭としてできることはないのかと悩んでいたが、一歩前に進める気持ちになった。子どもたちの未来のために少しでも私が変われたらと強く思った」などの感想があった。また、8月の研修会では「事例や資料がわかりやすかったので、とても印象に残った。早速取り入れていきたい」「大変よかった。自分自身の『自己実現に向けて』を振り返り、自己研鑽に励みたい」などの充実した研修内容であったことが伺える感想が数多くあった。また、12月の地区別校種別共同研究発表では「今日の研修を参考に再検討、改善してみようと思った」「様々な工夫を行い、実践されている様子が聞けたので、あきらめずに課題解決に取り組んでいきたいと思った」「とてもすばらしい取組ばかりで、今日学んだことを今後の執務に活かしたい」などの感想が数多く見られ、どの研修会も発達段階に応じた健康教育の推進につながるものとなり、資質向上につながったと考えられる。</p> <p>大阪市養護教員会では、昨年度に引き続き「養護教諭が行う健康相談の充実をめざして一よりよい支援の場としての保健室を考える一」についての研究を進めた。昨年度の研究では、全養護教諭を対象に行ったアンケート結果から、養護教諭は各学校園の実態を考慮して健康相談を行っており、保健室の施設空間や物理的環境以上に、平素から健康相談を行いやすいような工夫や配慮をすることや子どもの課題解決に向けてどのようなかわり方をするかが重要であることがわかった。また、健康相談の内容は多岐にわたるため、関係教職員と連携し、課題解決を図っていることもわかった。</p> <p>今年度は、日常的に健康相談を行いやすく、よりよい支援の場としての保健室であるための工夫や配慮、また、課題解決に向けて、校園内組織が円滑に機能するための工夫や配慮についての調査を行った。</p> <p>その結果、よりよい支援の場としての保健室であるために、学校園種の運営方法の違いや子どもの発達段階、相談内容の違いに対応した工夫や配慮がされていることがわかった。その中で、より効果的であると回答したものは、子どもたちに「笑顔で対応する」ことや「関心をもって見ていることを意識的に伝える」などの養護教諭として日常的に子どもとの信頼関係を築くために心がけていることと、健康相談時に安心して話せるための雰囲気づくりについての工夫や配慮などであった。また、日常的に校園内組織が円滑に機能するための工夫や配慮について、「教職員とコミュニケーションをとり、関係づくりを心がける」を選んだ養護教諭が一番多く、全体の98.7%が行っているとともに重視する項目の1位でもあった。「教職員とのコミュニケーションをとって関係づくりを意識することは、教職員の同僚性を高め、学校園組織を円滑に機能させることになる」と、昨年3月に行われた外部講師による研修会でも語られていた。多くの養護教諭がこの「関係づくり」を日々、意識して行い、健康相談の充実をめざしていることがわかった。一方、子どもの情報共有に関しては、関係者と個々に連携し、すでに実践もされているが、組織全体に向けての情報発信やコーディネートする等、養護教諭が率先して組織全体にかかわる項目については「行っている」と回答した養護教諭は50%以下であり、今後取り組みたい項目の上位にもあがっていた。</p> <p>これらのことより、各学校園では教職員と個々に連携している様子はわかったが、組織活動として、情報発信したり、コーディネートしたりすることは、まだまだ課題を残す結果となった。今後、組織的に協働して健康相談を行うために、現在実践できている養護教諭と教職員とのつながりが多方面に広がり、ネットワークとなるよう、養護教諭の専門性を活かした働きかけを工夫していく必要がある。</p> <p>子どもたちが心身の健康についての知識を習得し、その知識を活用して健康な生活習慣を形成し、生涯にわたり心身ともに健康で活力ある生活を送ることができたり、健康に関する現代的課題を解決し、自ら健康や安全を管理する能力を身に付けたりできる力が育ったかについては、これからも長期間にわたって見守り続けていく必要があると考える。そのために、今後も幼稚園から高等学校まで全校園種から組織されている養護教員会の縦横の組織の力を活かし、子どもたちが安心して生活を送ることができ、安全な社会が実現できるよう、研鑽を積み、養護教諭としての資質向上に努めていきたい。</p>								
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1" data-bbox="272 1973 1485 2063"> <tr> <td>日 程</td> <td>平成 30 年 12 月 14 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 470 名</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td colspan="3">大阪市教育センター</td> </tr> </table>	日 程	平成 30 年 12 月 14 日	参加者数	約 470 名	場 所	大阪市教育センター		
日 程	平成 30 年 12 月 14 日	参加者数	約 470 名							
場 所	大阪市教育センター									

※上記の内容について、原則としてフォントは10ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)で作成し、平成31年2月25日(月)までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)